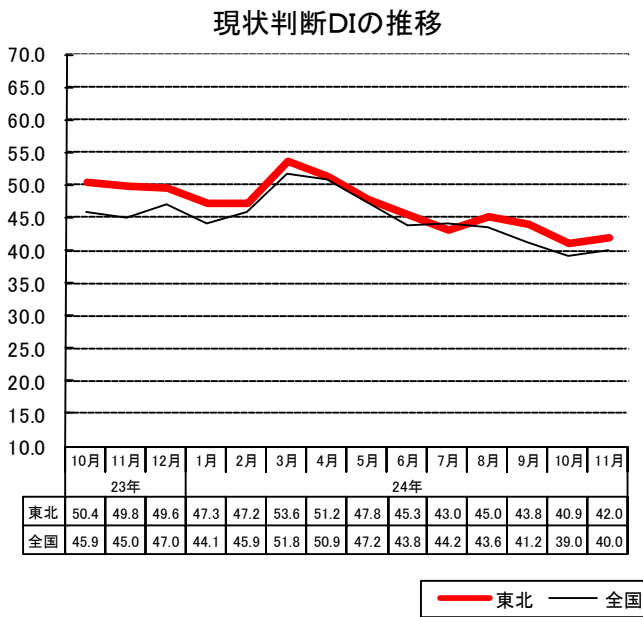


公益財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年11月東北分
(新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年11月東北分（新潟を含む東北7県）」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）

現状判断DI「42.0」（+1.1）は、3か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を7か月連続で下回った。



- ・家計動向…寒さの本格化により、冬物商材の動きが活発化している。DIは「41.1」（+0.1）と3か月ぶりにわずかに前月を上回り、基準値50を7か月連続で下回った。

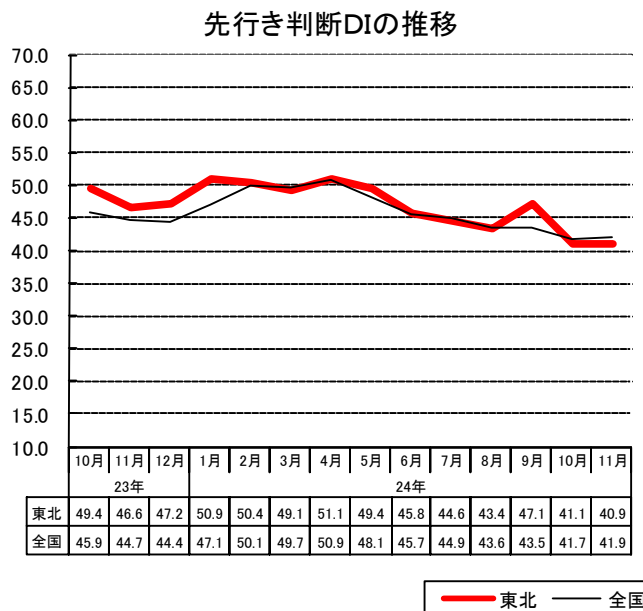
- ・企業動向…多業種にわたり、受注環境に厳しさがみられるものの、円安傾向に為替が変化したことから、輸出環境がやや良化している。DIは「42.5」（+5.3）と5か月ぶりに前月を上回り、基準値50を8か月連続で下回った。

- ・雇用動向…DIは「46.6」（▲1.1）と3か月連続で前月を下回り、基準値50を2か月連続で下回った。

- ・プラスのキーワード：冬物
- ・マイナスのキーワード：低価格・買い控え

2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）

先行き判断DI「40.9」（▲0.2）は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を7か月連続で下回った。



- ・家計動向…年末年始以降のイベント需要に期待がみられるものの、景気の先行き不透明感から客の購買意欲の低下が懸念される。DIは「39.2」（▲1.0）と2か月連続で前月を下回り、基準値50を31か月連続で下回った。

- ・企業動向…多くの業種で受注環境が厳しく、回復が期待できないなか、一部の業種で改善の動きが見込まれる。DIは「45.0」（+2.9）と3か月ぶりに前月を上回り、基準値50を3か月連続で下回った。

- ・雇用動向…DIは「44.3」（±0.0）と前月から横ばいで、基準値50を3か月連続で下回った。

- ・プラスのキーワード：冬物
- ・マイナスのキーワード：低価格・買い控え

<参 考>

■DIの推移※

(1) 現状判断(方向性)DI

	23年			24年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北現状	50.4	49.8	49.6	47.3	47.2	53.6	51.2	47.8	45.3	43.0	45.0	43.8	40.9	42.0
家計動向関連	48.9	48.4	46.7	43.9	43.0	52.3	50.2	47.0	42.7	41.0	43.4	42.1	41.0	41.1
企業動向関連	50.0	50.6	51.3	50.0	51.2	51.3	47.5	46.9	48.8	46.3	46.3	45.1	37.2	42.5
雇用関連(参考)	60.7	57.1	65.5	64.3	66.7	66.7	64.8	54.5	55.7	50.0	53.4	52.3	47.7	46.6

(2) 先行き判断DI

	23年			24年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北先行き	49.4	46.6	47.2	50.9	50.4	49.1	51.1	49.4	45.8	44.6	43.4	47.1	41.1	40.9
家計動向関連	49.6	45.7	44.3	48.4	48.2	46.9	49.5	49.3	43.8	43.3	40.2	46.2	40.2	39.2
企業動向関連	45.6	46.3	51.3	54.3	54.9	51.3	55.6	48.8	49.4	48.8	50.6	49.4	42.1	45.0
雇用関連(参考)	54.8	53.6	58.3	60.7	56.0	59.5	53.4	51.1	52.3	45.5	51.1	48.9	44.3	44.3

※DI (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成24年11月25日～30日

回答者数 203/210名、回答率96.7%(全国1,879/2,050名、91.7%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-222-3394 FAX : 022-222-3395

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（商店街）…9月までは残暑が厳しく、ファッション、雑貨関係が大変不振であった。10月に入り秋物が、11月に入り冬物が動き単価が上がっているため、まずまずの成績となっている。飲食は前年同様の成績という形が多い。

（靴専門店）…気温の低下と初雪の影響でブーツの動きが活発になってきている。前年はこの時期に積雪があったが今年はまだないため、長靴の動きは鈍い。前年の豪雪をふまえて外出回数を減らそうと考えているのか、2足、3足とまとめ買いをする客が多く見られる。

（ショッピングセンター）…館全体の売上高が前年比を超過している。衣料品は、残暑の影響で9、10月は売上が伸び悩んだが、10月中下旬頃から気温の低下に伴い売上が伸びてきている。

（通信会社）…3か月前の8月は今年度で最低の状況であったため、11月は約2倍の契約数を獲得している。ただし、9～11月と新規加入者の獲得は横ばいのまま推移している。解約者についてはやや減少しているため、全体としてやや良くなっている。

（住宅販売会社）…消費税増税が確定し、駆け込み需要が始まっており、受注上乘せになっている。

（食料品製造業）…お歳暮商戦がスタートし、出足は前年より順調である。しかし、12月に総選挙があるためお歳暮トータルでみるとどうなるかわからない。いつも選挙のときのギフトは数字が悪くなるので心配である。

（土石製品製造販売）…消費税率が上がる前にとマンション建設や、新築工事をする方が増えてきて、発注が右肩上がりになってきている。

（職業安定所）…商業施設の開業や、デイサービスなどの介護施設の開業などもあり、新規求人は引き続き高水準で推移しており、有効求人倍率も緩やかに上昇している。

○「変わらない」

（書籍販売店）…客は購買商品をかなり選択しているようである。さらに、欲しいもののなかでも選んで購入している人が多くなっており、ジャンル別の売上に相当差が出てきている。

（医薬品販売店）…来客数が震災後最も多くなりそうである。一方で、客単価の減少が顕著であり、結果として、売上は3か月前と同程度になりそうである。来客数が増えているのは、震災後移転した店舗が徐々に周知されてきているためとみられる。来客数のレベルは改善傾向にあるとはいえ、震災前に比べいまだ格段に低い。

（百貨店）…中旬ごろから寒さも本格的になり、防寒衣料や防寒雑貨の動きが良い。また、お歳暮の動きは震災需要があった前年に比べると厳しい状況にある。

（コンビニ）…売上は前年比103%とまずは良好だが、来客数が98%と前年を割り込んでいる。売上が良好な原因は相次ぐ販促によるものである。通常は単発だが今回は2回連続して行ったために、来客数の減を買上点数で補った形になっている。買上点数増は景気の影響によるものではない。

（ガソリンスタンド）…ガソリンを中心に燃料の需要が思わしくなく、前年を割った出荷が続いている。それに伴い範囲競争が強く価格が軟調傾向になっているため、収益を圧迫している。幸い寒波が来ているため暖房用の燃料の動きが活発で一息ついている。前年、タイヤの需要において震災の影響で特需が発生したが、今年はその反動で需要が落ち込んでおり、前年並みの販売が厳しい状況が続いている。

（観光型ホテル）…特に団体利用についてはデフレの傾向が顕著になっており、まず値段ありきで予約が入る状況が続いている。また、選挙モードに入ったことによるキャンセル等も多少あり、影響が出ている。

（都市型ホテル）…前月同様、レストランディナータイムの低迷に歯止めが掛からない。また、選挙の影響とみられるが、数件の宴会がキャンセル又は延期となっている。

- (美容室) …9月ごろから来客数は前年比で横ばいの状況が続いている。良くも悪くもないという状況である。
- (一般機械器具製造業) …自動車部品については、為替相場がやや円安に推移したことから、輸出環境はやや良化している。ただし、中国に向けた日本からの部品の輸出については減少している。
- (建設業) …復興関連工事のうち、特に地方自治体発注の大型案件の出件が当初の見込みと比較して滞っている。
- (広告代理店) …印刷物の価格下落に歯止めが掛からない。大手代理店や大手印刷会社が、営業フィールドを下げ取りに来ている。そのため、色々な広告物をまとめて安価で受注している状況が多い。
- (飲食料品卸売業) …県内向け、首都圏向け共に良い水準で出荷が安定している。特に県内では、復興特需に伴う飲食店の新規開業などが続いたが、このところ落ち着いており、一定の店舗数、集客で安定したとみられる。
- (職業安定所) …復興需要に伴う求人は引き続き好調に推移するなかで、求職者の減少傾向が進んでいることにより、求人倍率は改善が進んでいるが、景気回復を実感できる場面は乏しい。

○「やや悪くなっている」

- (スーパー) …商圈内競合店のリニューアルオープンに伴い、他の競合店もチラシ価格対応などをしており、曜日別の平均来客数が減少傾向にある。また、客はよりチラシ価格に敏感になり、平均単価もダウンしている。競合店間の買い回り傾向が強くなっているようである。
- (家電量販店) …比較的好調のように見えた白物家電も単価ダウンに巻き込まれ、切替え年度の新製品の価格があまりにも高いため、買い控えのような動向が見受けられる。
- (乗用車販売店) …エコカー補助金の反動か、新車購入目的の来客数が減ってきている。新車受注は大きく落ち込んでいる。
- (酒類専門店) …冬に向けて出費もかさむことから、消費者の買い控え傾向がますます強くなっている。また、飲食店も年末年始に向けての動きが多少聞かれるものの、今月は例年以上に静かであり、何とか仕入れを抑えて乗り切ろうとする雰囲気が強くなる。全体的に物の動きが鈍い。
- (一般レストラン) …当エリアでは市長選が控えているが、それに追い討ちをかけるかのように衆議院が解散している。政治がらみの動きが強くなると、飲食業は人の出入りが少なくなってしまう傾向にある。
- (旅行代理店) …10月までは前年、前々年のいずれも上回る数値で推移をしていたが、11月以降は実績、予測を含め、前年、前々年と同等か下回る受注状況となっている。
- (遊園地) …前年比で一般、団体共に下回っており、全体としても2割以上の減となっている。気温が低いなどの要因もあるが、個人消費に勢いが無い。
- (農林水産業) …畑作物戸別所得補償制度の導入により、前年以降、転作の蕎麦の作付が全国的に増えたことから、玄蕎麦の買取価格が大幅下落している。

○「悪くなっている」

- (人材派遣会社) …10月から11月にかけての求人数の減少は大きい。特に業務請負業からの申込が激減している。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

- (一般レストラン) …年末年始の動きは一段落しているところであるが、総選挙等の動きが終わって、少し世の中の緊張感もほぐれ、購買意欲も平常に戻ると予想する。
- (観光名所) …現在、2月に開催する大きなイベントの準備中であり、復興支援も含め盛り上げを図っているところである。
- (土石製品製造販売) …これから東北は本格的な雪の季節になる。積雪に向けての道路設備や、建物の補強工事などの作業が結構入ってくるため忙しくなる。

(建設業) …地方議会における年度内での工事契約承認を考慮し、年度末に向け、地方自治体の大型案件等が一定量出件すると推測される。

(アウトソーシング企業) …来年度はわからないが、今年度は震災関連の仕事がまだまだ続く。経費削減を優先し、新規の投資を先送りにする傾向がある。

○「変わらない」

(スーパー) …来客数は微減だが、1点単価、買上点数の減少がずっと続いている。競合を含め、価格競争だけが激化し、利益を圧迫する悪循環はまだまだ脱却できそうにない。

(スーパー) …商圈内の競合店数も変わらず、競合店間のチラシ価格競争は続くとみられ、現状横ばいで厳しい状況が続く。

(コンビニ) …クリスマスケーキやおせち等、予約獲得商材の受注数が前年を大きく下回っている。景気回復の要素も無く、厳しい年末年始になりそうである。

(衣料品専門店) …安くはなくても必要なものを納得する価格で買うという傾向が続く。寒くなるなど我々の業界に追い風がくれば売れるし、そうならなければ厳しいなど、天候要因にも左右される。状況からみるとあまり変わらないのではないかと予想している。

(パソコン専門店) …利益が取れない状況はまだ続く。企業努力で件数を多く獲得するしかないが、周りの業者も同じ状況なので、競争が激化するなかで努力していくのは体力的に心配な部分がある。今後も厳しい状況が続くとみられる。

(都市型ホテル) …宴会部門は定例の新年会以外、今のところ新規受注は無い。また、期待されたインバウンドも関係改善の兆し無く、宿泊及びレストラン部門も苦戦の見通しである。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、世界の需要がやや拡大しているので、今後増加することが予想される。ただし、中国の需要、それから一部ASEAN地域、南米の一部地域については引き続き減少することが懸念される。

(輸送業) …運休中の国際定期便の回復がみえない。

(広告業協会) …今年は年末年始の広告引き合いも今のところ活発とは言いがたい。来年3月の震災2年目のイベントや宮城県が中心となるデスティネーションキャンペーンに期待をしている。

(職業安定所) …建設業、小売店、飲食店、介護施設などからの求人、新規求人は引き続き高水準で推移するとみられるが、食料品製造業を除く製造業など一部の業種では求人の動きが悪くなっており、今後の動きに注意が必要である。

○「やや悪くなる」

(医薬品販売店) …客単価や得意客の来店頻度が落ちている。客の懐具合は更に苦しくなっているようである。また、客との会話のなかでも、その端々で生活が苦しい様子がうかがえる。例えば、処方せんでの一部負担金が大変だといった話である。ついで買いはまず無い。大手企業の大規模リストラが伝えられるなかで、個々の消費者は、ますます生活防衛に走るだろう。

(百貨店) …12月はボーナス月であり、クリスマスや年末の準備等で客にとっては忙しい月であるが、特に必要な買い足しアイテムは少なく、こちらからの動員、イベントを仕掛けて呼んでいくのだが、12月中旬ともなると購買意欲は1月のセールへの関心に変化する方が多数である。前半戦でいかに効果的に来店促進を行い、客単価を上げていくかが重要となる。しかし、11月は特に後半週で伸ばしたため、前年比、予算共に売上達成していることと、気温がぐっと冷え込む予報のため、初雪での出足が心配である。

(金属工業協同組合) …主要受注先の発表によると、今後の事業方針計画は売上減少、人員調整を含むコスト低減強化策等が顕著に見られ、良い材料が無い。

(求人情報誌製作会社) …企業側の期間を限定した人材ニーズは依然高いが、求職者側は正社員での長期就業を希望する傾向が強くなっており、そのギャップはどんどん大きくなってきている。どちらも妥協しないため、雇用に結び付かない。

○「悪くなる」

(通信会社) …年末年始の特番視聴に間に合わせたいことと、年末キャンペーンの効果で新規の加入契約は12月がピークになり、1～2月に向かって最低の契約状況になる。その他にも、12月から大手通信会社の大幅な値下げ競争が始まることで、比較的増減の幅が小さかったインターネットの加入者も大きく減少し、解約者は増加することが予想される。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上